

# オーストラリア人に聞きました! 日本映画の特徴って?

日本映画で見る“日本らしさ”とは、何だろうか? 西オーストラリアの大学で映画学を教え、日本映画にも精通する Tim Holland さんに日本と欧米の映画の違いなどについてお話を伺いました。

**Q** Tim さんは、日本のアニメーション映画に興味があると伺いましたが、日本のアニメーションの特徴は、ズバリどんな点だと思いますか?

**A** 日本のアニメーション映画の中で特に記憶に残っているのは、『アキラ』と『千と千尋の神隠し』、『となりのトトロ』の3作品です。まず思ったことは、日本のアニメーション映画で描かれている世界は、幼少期の僕の体験とは異なっていたということです。僕は一般的な家庭で育ったオーストラリア人ですが、僕らはアメリカのアニメを見て育ち、そのヒーローやストーリーを真似して遊んでいましたからね。

日本のアニメーションで特徴的だと思うことは、「子どもと女性のキャラクターがイキイキと、可愛らしく描かれている」ことでしょう。例えば、目と頭は大きく強調され、髪型は濃くはっきりと表現されています。キャラクターの俊敏な動きや唐突な会話なども欧米にはない特徴だと思います。

やはり、日本のアニメーション界という宮崎駿監督が頭に浮かぶと思います。ですが、彼だけが“わかりやすく可愛いキャラクター”を上手に持って、「自然」や「人間の神秘」、「精霊」など高尚なテーマに立ち向かってきた巨匠ではありません。日本のアニメーションの歴史は長く、ごく普通の日常生活から、空想的な側面まで幅広いテーマを探究し、その可能性を広げてきていると感じます。

**Q** 日本の映画を代表するジャンルに「時代劇」がありますが、日本独自の世界観があると思います。「西部劇」と比較してどのような特徴があると思いますか?

**A** 「アメリカの西部劇映画」と「日本の侍映画」は別物ではなく、互いに影響し合ってきています。例えば、黒澤明監督の『七人の侍 (1954)』は、『The Magnificent Seven / 荒野の七人 (1960)』などの有名な西部劇に大きな影響を与えてきました。ストーリーの設定など、類似する点が多くありますよ。同じく、黒澤明監督の『用心棒 (1961)』は、後に『A Fist Full of Dollars / 荒野の用心棒 (1964)』としてリメイクされ、“マ



カロニ・ウェスタン (イギリス、アメリカ、イタリア等では、スパゲティ・ウェスタンと表現する)”と呼ばれる西部劇が確立しています。

「西部劇」と「侍映画」との違いをあえて表現するならば、西部劇では、犠牲者が出る前に必ず、生き残るためのたくさんのチャンスが描かれているのに対して、侍は時に刀で切腹をするという美学があります。これは、対照的な違いですね。



**Q** アニメーション映画以外に Tim さんの気になる日本映画があれば、ぜひご紹介ください。

**A** 僕は北野武監督のファンで、その中でも『HANA-BI』はお気に入りの1本です。

彼の作品は、スローで描かれ、ときに視聴者をじらすのですが、それは紛れもなく彼の作風です。また、とても日本的だなと感じられた点は、「繊細な意思表示の差違」によって、これから起こるであろう不意で残酷な“暴力”を予感させ、登場人物を際立たせるという手法です。そうすることで観る者に対して、哀感を駆り立てるのです。



『HANA-BI』の終盤で、主人公は銀行強盗を働いた後、妻と一緒に旅行に出かけ、そして最後の人気のない海岸での結末も大変日本的だと感じました。

## Tim Holland ティム・ホランド

西オーストラリア州立カーティン大学、マードック大学、西オーストラリア大学にて、映画学やテレビ学の講義を行う一方で、自主制作でショートムービーやコンピュータゲームなども製作する。

